

自動運転

2023. 3. 13

車が新しくなり、2か月が経過しようとしている。ようやく自分の車のことがわかってきた。張り切って分厚い取扱説明書を読み始める。だが、数ページで挫折する。こんなことを何度も繰り返してきた。

読んでいると疲れてくるのである。頭をフル回転させる。専門用語が次から次へと出てくる。一度読んでも意味がわからない。同じところを何度か読む。この説明ブックの最初に書いてあった。ぜひ、運転席に座って操作しながら読んでくださいと。確かにそうだった。

何度も挫折しながらもどうにかゴールにたどり着いた。しかし、読んだ内容を覚えているかどうか、操作できるかどうかは別の問題である。難解な本を読破できたかどうかの話である。それでも妙な達成感があるから不思議である。

わかったことがある。それは、今度の車は、自動運転に近い車だということである。これだと交通死亡事故ゼロも夢物語ではないと思えてくる。前方に急に障害物が出てくれば、こちらがブレーキを踏まなくても急ブレーキをかけてくれるそうである。画期的である。

だが、疑わしい。試してみたいくなる。ちゃんと説明ブックには、試すようなことはしないようにと書いてある。見透かされている。本当に作動するかどうかはわからないが、一つの安心材料にはなる。ただし、バンパーにあるセンサーが汚れていたりすると感知できないので作動しないとある。これでは、自動運転には遠い。日本車ならば大丈夫なのだろうか。

他にもいろいろとセンサーがついている。だが、フロントガラスの感知センサーが汚れていたり、凍っていたりすると作動しないとある。何だか今一つである。右に寄ったり左に寄ったりと車線を越えそうになると、けたたましい音が鳴る。うるさいので音をやめて振動という選択肢もある。これもこわい。音量調節がないのがつらい。

音楽を聞くときは、スマホを使うようになった。今は、何でもスマホの時代である。昭和ポップス、1980年代ヒットソング、ユーミンベスト、浜田省吾に山下達郎、佐野元春に大滝詠一と懐かしいものが選び放題である。サザンオールスターズのベストに福山雅治もある。最近の曲も少しは知りたいと思えば、トップソングやヒットチャートを選べばよい。車に乗ると、自然とスマホにつながるから便利である。

マニュアルブックは読んだ。様々な便利な機能があることもわかった。いろいろと“自動”であることもわかった。だが、最初からわかっていることがある。これらのものを使いこなすことはないことを。前に乗っていた車の話である。乗り始めて8年ぐらいが経ち、ようやく気づいた便利な機能があった。我ながらがっかりした。今度はそうならないようにと、分厚い本を読破した。これもわかっている。結局は、使いながら適当にいじりながら覚えていくことを。

それにしても読むのは疲れた。これもリーディングスキルの問題なのだろうか。とても気軽には読めない文章だった。皆さんはどうしているのだろうか。今回の車では、数年経ってから、その機能に気づくということはないようにしたい。